

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

回答社数構成比%ポイント

（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2011/3月	6月	9月	12月	2012/3月	6月	9月までの 予測
業況判断 < 良 - 悪 >	▲34	▲33	▲46	▲34	▲29	(▲32) ▲ 8	▲23
うち製造業	▲20	10	0	0	▲20	(▲20) ▲20	▲10
非製造業	▲38	▲43	▲58	▲42	▲32	(▲34) ▲ 6	▲27
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲45	▲33	▲48	▲32	▲29	(▲32) ▲25	▲20
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	3	5	11	6	9	(-) 13	-
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	19	4	6	5	7	(5) 7	9
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	23	7	5	9	6	(2) 0	0
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲21	▲29	▲32	▲32	▲26	(-) ▲22	-
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	▲ 4	▲ 9	▲ 7	▲ 5	▲ 7	(-) ▲ 4	-
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲ 2	▲ 3	▲ 8	▲13	▲ 9	(▲ 2) ▲ 7	▲ 9
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲33	▲25	▲27	▲29	▲29	(▲29) ▲33	▲35
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	25	27	21	21	27	(27) 23	25

（注）「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「9月までの予測」は調査対象外。

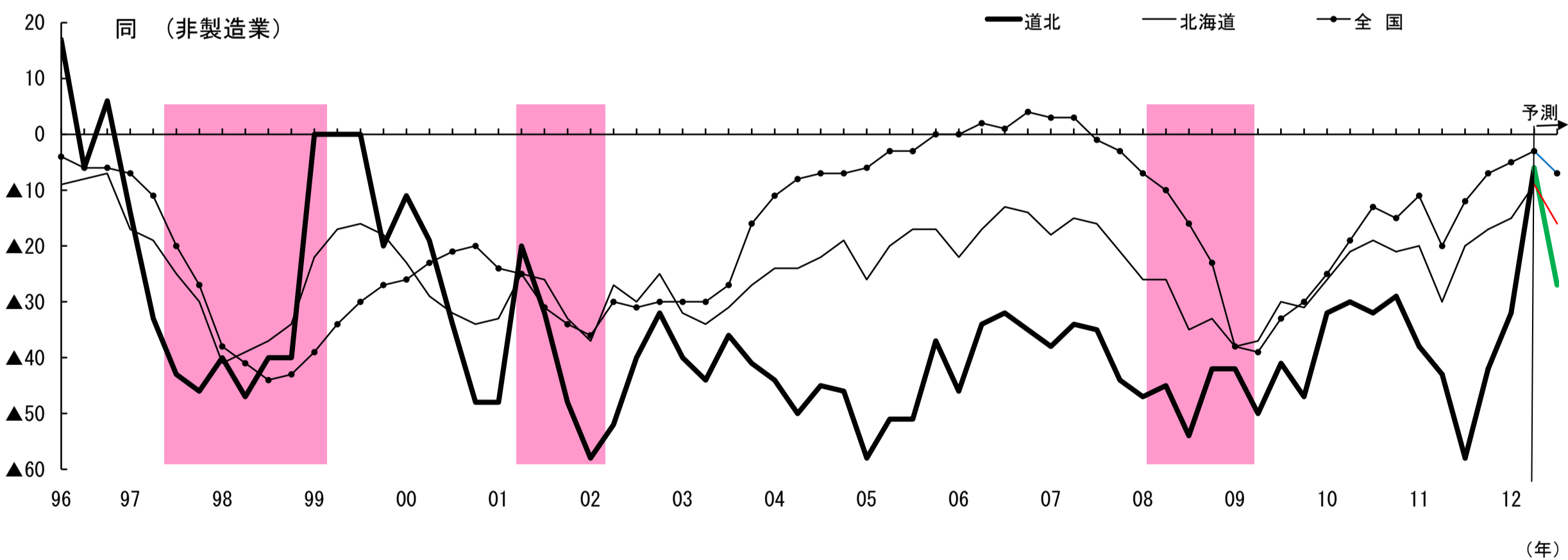
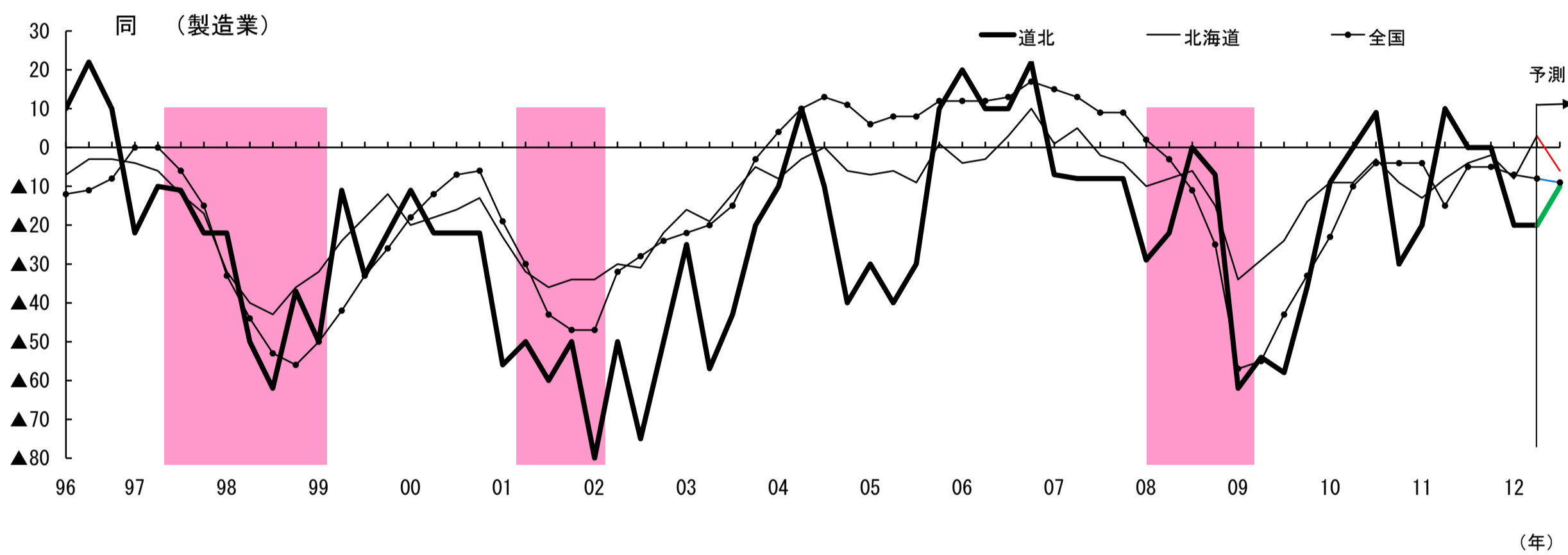
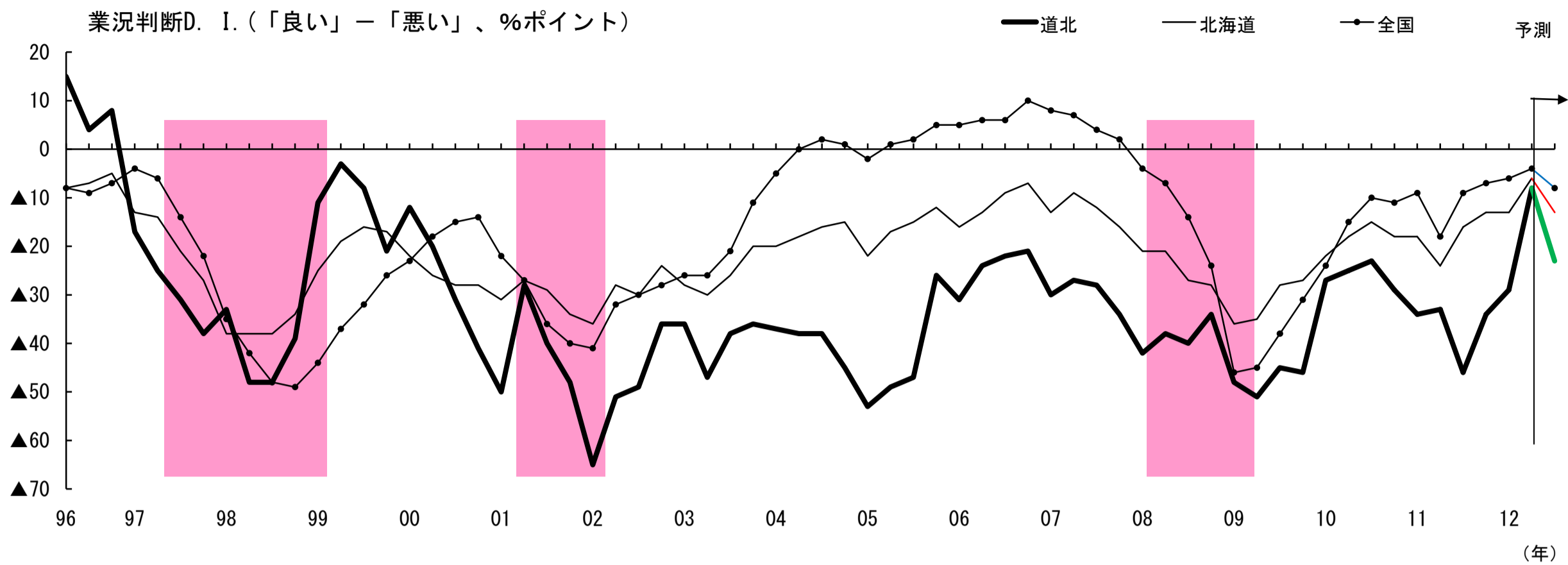
全産業、前年度比%、

< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

	2011年度実績	2012年度計画	
		上期	下期
売上高	+1.6 < +1.1 >	▲ 3.2 < +0.2 >	▲ 3.8 < +0.7 > ▲ 2.7 < -0.3 >
経常利益	+2.1 < -2.6 >	+24.3 < +8.6 >	▲42.4 < -36.2 > 3.3倍 < +74.1 >
当期純利益	赤字転化 < 赤字転化 >	黒字転化 < +16.0 >	▲44.9 < -50.1 > 黒字転化 < 2.5倍 >
設備投資額	+14.4 < +24.3 >	▲ 5.2 < +13.0 >	+48.4 < +8.2 > ▲48.7 < +25.9 >

2012年6月短観・調査結果



(注) 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2009/9月以前は調査対象企業等見直し前の旧ベース、2009/12月以降は見直し後の新ベース。
 シャドーは景気後退期（内閣府調べ）

2012年6月短観のポイント

- 回答期間：2012年5月29日～6月29日。
- 道北地域48社が対象（有効回答社数48社）。

（判断D. I.）

- 業況判断D. I. は▲8%ポイントと前回（3月）調査（▲29%ポイント）比21%ポイントの大幅な改善。▲8%ポイントは、1999年9月（▲8%ポイント）以来、12年9か月振りの高い水準。
- 製造業では▲20%ポイントと3月調査（▲20%ポイント）比横這い。また、非製造業では▲6%ポイントと3月調査（▲32%ポイント）比26%ポイントの大幅な改善。
- 改善した先の背景としては、「震災や爆弾低気圧の影響に伴う防災関連需要」（その他情報サービス）、「観光需要の持ち直し」（宿泊・飲食サービス）、「大型工事が予定されていることに加え、同業他社も減少」（建設）、「公共投資は低水準が続く業界環境は厳しいが、たまたま今回公共事業を落札」（建設＜複数先＞）、「砂利単価の下げ止まり」（鉱業・採石業）、「タイ洪水の影響一巡」（電気機械）など。悪化した先の背景としては、「中国等からの安値輸入品との競合激化」（電気機械）など。
- 全国をみると、大企業製造業では▲1%ポイントと前回調査比3%ポイントの改善。素材関連業種（非鉄金属、化学）が大幅に改善したほか、自動車、電気機械も改善。また、大企業非製造業も3%ポイント改善し、8%ポイント。電気・ガスで悪化の一方、建設、運輸・郵便といった復興関連業種のほか、宿泊・飲食サービス、対個人サービスも改善した。大企業全産業では、3%ポイントと前回調査比3%ポイントの改善。全国全規模合計製造業では▲8%ポイントと前回調査比1%ポイントの悪化。全国全規模合計非製造業では▲3%ポイントと2%ポイントの改善。全国全規模合計全産業では、▲4%ポイントと2%ポイントの改善。
- 全道をみると、全産業では▲6%ポイントと前回調査比7%ポイントの改善。製造業では11%ポイント改善し3%ポイントとなったほか、非製造業も6%ポイント改善し▲9%ポイントとなった。
- 道北地域における6月の業況判断D. I.（▲8%ポイント）は、前回調査における6月までの予測（▲32%ポイント）との対比で大幅な改善。先行き9月までの見通しは▲23%ポイントと15%ポイントの大幅な悪化。業種別では製造業（▲20%ポイント→▲10%ポイント）が改善となる一方、非製造業（▲6%ポイント→▲27%ポイント）は大幅な悪化を見込んでいる。先行き悪化先のコメントとしては、「大型工事が完成し、今後売上が減少」（建設）、「足許、たまたま公共工事を落札したが、公共投資が低水準を続ける中、先行きの受注は厳しいものと予測」（建設＜複数先＞）、「原料水産物価格の上昇」（食料品）など。先行き好転先の主なコメントとしては、「営業活動の強化による新規取引先の確保」（電気機械）など。

- 需給環境は、改善。先行きも改善を見込んでいる。
- 在庫水準は、過剰超幅がやや増加。
- 生産・営業用設備は、前回調査比横這い。先行きは過剰超がやや拡大することを見込んでいる。
- 雇用人員は、過剰超幅が縮小しゼロに。建設、運輸・郵便では不足超に。先行きも横這いを見込んでいる。
- 資金繰りは、苦しい超幅が縮小。また、金融機関の貸出態度は、厳しい超幅が縮小。この間、借入金利水準は低下超幅が縮小。先行きは再び拡大することを見込んでいる。
- 仕入価格は、上昇超幅が縮小。先行きはやや拡大することを見込んでいる。また、販売価格は下落超幅が拡大。先行きもやや拡大することを見込んでいる。

(事業計画)

- 2012年度の売上高は、前回調査比若干の上方修正(+0.2%)。前年度比は2011年度実績が上方修正されたこともあって、▲3.2%の減収見込み。2011年度上方修正の主因は、「公共工事落札等で想定より受注が増加」(建設<複数先>)、「除雪の増加」(建設)、「製品単価の下落幅が想定より緩やか」(木材・木製品)等。2012年度は、「タイ洪水の影響の剥落」(電気機械)から増加を見込む先がある一方、「道内公共工事関連事業を取り巻く環境が引続き厳しい」(窯業・土石)ことを理由に減少を見込む先がみられた。
- 2012年度の経常利益は、「タイ洪水の影響の剥落」(電気機械)や「営業活動の強化による売上増の期待」(電気機械)から前回調査比上方修正(+8.6%)され、+24.3%の増益を見込んでいる。当期純利益も上方修正(+16.0%)され、黒字転化を見込んでいる。
- 2012年度の設備投資は、前回調査比上方修正された(+13.0%)。建設で新規事業参入のため設備投資を積み増す動きがみられている。一方、前年度比は2011年度実績が今回大幅に上方修正された(+24.3%<前年比+14.4%>)結果、▲5.2%の減少を見込んでいる。

以 上